

## 予告 令和7年度法学部特色入試入学者選抜方法における変更について

法学部では、令和7年度以降の特色入試について、以下のとおり変更する予定です。

1. 試験実施方式として後期日程を廃止し、学校推薦型選抜を実施します。

2. 募集定員は20名とします。

3. 推薦要件

次のすべての要件を満たすこととします。

- (1) 人格・見識ともに特段に優れており、学校長が責任をもって推薦する者
- (2) 学業成績に秀でており、国家・社会に関する事象に強い関心を持ち、このような事象を本質から理解しようとする知的探究心を有すること。自らの考えを言語化し、異なる文化的・社会的背景や価値観を有する他者との対話・コミュニケーションを遂行するために必要な基礎的かつ十分な日本語・外国語における言語遂行能力を修得していること
- (3) TOEFL iBT の Official Score Reports 又は Test Taker Score Report、IELTS (アカデミック・モジュール)、TOEIC Listening & Reading Test の受験者成績書の原本、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本のうち少なくとも1つを提出できる者
- (4) 大学入学共通テストにおいて、指定した教科・科目を受験する者
- (5) 本学法学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確約する者

4. 各学校長が推薦できる人数は2名まで(ただし、男子は1人まで)とします。

5. 提出書類

- (1) 調査書
- (2) 推薦書(「学業成績に秀でていること」に該当する理由を記載してください。志願者が在学中に行った活動・研究のうち、推薦要件(2)に照らして、特筆すべきものの内容について、その理由とともに説明してください。)
- (3) 学びの設計書(法学部のアドミッション・ポリシーならびに、法学部が特色入試で求める人物像を読み、あなたが法学部で学びたいことや、卒業後の進路などについて、自由に述べてください。)
- (4) 推薦要件(2)を満たすことを具体的に証明する資料。例えば、下記のもの。但し、これに限定されない。
  - ・高等学校等での課題研究の実績や執筆した論文
  - ・留学経験を証明する書類、外国人との交流や支援活動を行ったことを示す第三者の推薦状
  - ・特記すべき社会貢献活動や課外活動の内容を証明する書類
- (5) TOEFL iBT の Official Score Reports または Test Taker Score Report、IELTS (アカデミック・モジュール)、TOEIC Listening & Reading Test の受験者成績書の原本(コピー不可)、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本(コピー不可)のうち少なくとも1つ

## 6. 大学入学共通テスト利用教科・科目名

【国語】「国語」

【地歴・公民】『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』以上から2科目選択。

ただし、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』のうちの少なくとも1科目が含まれること。

【数学】『数学I、数学A』及び『数学II、数学B、数学C』

【理科】『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』の出題範囲である「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、地学基礎」から2つを選択解答すること。※1

【外国語】『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』のうちから1科目選択。※2

【情報】『情報I』

※1 基礎を付した科目から2科目を選択することに代え、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』のうちから2科目を選択することができます。その場合は、200点満点を100点満点に換算します。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』はリーディング100点満点を150点満点、リスニング100点満点を50点満点の合計200点満点に換算して利用します。リスニング免除者はリーディング100点満点を200点満点に換算して利用します。

## 7. 選抜方法および基準

第1次選考は、提出書類により選考を行います。(11月下旬、結果発表)

第2次選考は、第1次選考に合格した者に対して、小論文試験の成績により選考を行います。

小論文試験では、英語の文章を題材に、日本語で解答する小論文を課し、読解力、論理的思考力、日本語による表現力などについて評価します。(1月上旬、結果発表)

最終合格者は、第2次選考に合格した者で、大学入学共通テストの合計得点が概ね80%以上のものを合格者とします。(2月上旬、結果発表)